

3 OSのセットアップ

～エンコードサーバ～

InternetStreamingServer/EncodeServer(エンコードサーバ)にMicrosoft® Windows® 2000 Professional 日本語版(以降、「Windows 2000」と呼ぶ)をインストールする手順について説明します。インストールの方法は購入後、初めて電源をONにする場合と再インストールの場合で手順が異なりますので読み分けてください。また、インストール後、障害が起きた際に早く復旧させるために必要なセットアップについても説明しています。

InternetStreamingServer/DeliveryServer(デリバリサーバ)に関する説明については4章を参照してください。

- 初めて電源をONにするとき(→48ページ) ストリーミングサーバを購入後、初めて電源をONにすると、ハードディスクにインストール済みのOSのセットアップが始まります。セットアップの手順とセットアップ完了後に行う作業について説明します。
- 再セットアップ(→59ページ) OSを再セットアップするときの手順について説明します。

初めて電源をONにするとき

箱を開けてからお使いになるまでの手順について、順を追って説明します。再セットアップの際は「再セットアップ」を参照してください。

1 ハードウェアのセットアップ

ストリーミングサーバをラックに取り付け後、ディスプレイ装置やマウス、キーボードのケーブルをストリーミングサーバに接続し、添付の電源コードをストリーミングサーバと電源コンセントに接続してストリーミングサーバの電源をONにすることができる状態にしてください。電源のON後、インストール済みのWindows 2000のセットアップが始まります。

ハードウェアのセットアップについては2章を参照してください。



- プリンタなどの周辺機器はオペレーティングシステムのセットアップを完了してから接続してください。
- 日付や時間がBIOSで正しく設定されているか必ず確認してください。BIOSの設定変更については6章を参照してください。

2 オペレーティングシステムのセットアップ

購入されたストリーミングサーバのハードディスクには、Microsoft Windows 2000 Professionalがお客様の個別情報を設定する前の状態でインストール済みです。添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」を使用して、お客様の個別情報を設定してください。

セットアップをはじめる前に

セットアップを始める前に次の点について注意してください。

- プリンタなどの周辺機器の接続をしない

OSが起動するまで、プリンタなどの周辺機器の接続などはしないでください。

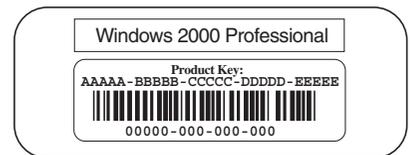
これらのデバイスを本体と同時に購入された場合は、セットアップが完了してから、あらかじめオプションの機器に添付された説明書を参照して接続してください。

- 途中で電源をOFFしない

セットアップの途中で電源をOFFすると故障の原因となります。

- セットアップで必要なもの

CD-ROM「EXPRESSBUILDER」と添付のフロッピーディスク(1枚)の他に「プロダクトキー」をメモしておいてください。



プロダクトキーはストリーミングサーバ本体に貼り付けられているIDラベルに記載されています。Windows 2000のセットアップや再インストール時に必ず必要な情報です。剥がしたり汚したりしないよう注意してください。もし剥がれたり汚れたりして見えなくなった場合はお買い求めの販売店または保守サービス会社に連絡してください。あらかじめプロダクトキーの番号をメモし、他の添付品といっしょにメモを保管されることをお勧めします。

セットアップの開始

ストリーミングサーバのハードディスクは、お客様がすぐに使えるようにパーティションの設定から、OS、ストリーミングサーバが提供するソフトウェアがすべてインストールされています。

次の手順でストリーミングサーバを起動して、セットアップをします。

1. ディスプレイ装置、ストリーミングサーバの順に電源をONにし、そのままWindows 2000を起動する。

[Windows 2000 Professional セットアップ]画面が表示されます。

2. [次へ]ボタンをクリックする。

[使用許諾契約]画面が表示されます。

3. [同意します]にチェックをして、[次へ]ボタンをクリックする。
以降、利用者名やプロダクトキーなどの設定画面が次々と表示されます。
4. 画面の指示に従って必要な設定をする。
自動的にシステムのアップデートが実行され、セットアップの終了を知らせる画面が表示されます。
5. [完了]ボタンをクリックする。
ストリーミングサーバが再起動します。
6. 再起動後、[ネットワークの識別ウィザード]で、適切な情報を入力する。
7. [完了]ボタンをクリックする。

[Windows2000の紹介]ダイアログボックスが表示されたら、インストールは完了です。

以上でOSのセットアップは終了です。再セットアップをする際は「シームレスセットアップ」を使ってください(「再セットアップ」を参照)。



● ディスク構成について

セットアップを完了したストリーミングサーバのハードディスク上に、「MAINTE_P」と表示された領域が存在する場合があります。この領域は構成情報やユーティリティを保存するための保守用パーティションです。削除しないでください。



- あらかじめWindows 2000セットアップブートディスク(57ページ参照)を作成しておくことをお勧めします。

デバイスドライバ(本体標準装備)のセットアップ

オプションのデバイスのドライバのインストールやセットアップについてはオプションに添付の説明書を参照してください。

● ディスクドライバ(IDE)

標準装備のディスクドライバは、購入時にインストール済みです(システムの修復や再セットアップの際にも自動的にインストールされます)。

● ネットワークドライバ

標準装備のネットワークドライバは、自動的にインストールされますが、転送速度とDuplexモードの設定が必要です(システムの再セットアップの際にも自動的にインストールされます)。

- ① スタートメニューから[設定]をポイントし、[ネットワークとダイヤルアップ接続]をクリックする。

[ネットワークとダイヤルアップ接続]ダイアログボックスが表示されます。

- ② [ローカル エリア接続]アイコンを右クリックし、ポップアップメニューから[プロパティ]をクリックする。
[ローカル エリア接続のプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。
- ③ [構成]ボタンをクリックする。
ネットワークアダプタのプロパティダイアログボックスが表示されます。
- ④ [詳細設定]タブをクリックし、[Link Speed & Duplex]をHUBの設定値と同じ値に設定する。
- ⑤ ネットワーク アダプタのプロパティダイアログボックスの[OK]ボタンをクリックする。
- ⑥ [ローカル エリア接続のプロパティ]ダイアログボックスの[OK]ボタンをクリックする。

また、必要に応じてプロトコルやサービスの追加/削除をしてください。[ネットワークとダイヤルアップ接続]からローカルエリア接続のプロパティダイアログボックスを表示させて行います。

● グラフィックスアクセラレータドライバ

標準装備のグラフィックスアクセラレータ用ドライバをアップデートします。オプションのグラフィックスアクセラレータボードを使用する場合は、そのボードに添付されている説明書に従ってドライバをインストールしてください。

- ① CD-ROM「EXPRESSBUILDER」をCD-ROMドライブにセットする。
- ② スタートメニューの[プログラム]→[アクセサリ]から[エクスプローラ]をクリックする。
- ③ 「<CD-ROMのドライブレター>:\¥WINNT¥VIDEO¥RAGEXL¥W2K」ディレクトリ内の[Setup.exe]アイコンをダブルクリックする。
- ④ メッセージに従ってインストール作業を進める。
途中で「デジタル署名が見つかりませんでした。...」というメッセージが表示された場合は、[はい]ボタンをクリックして、インストールを続けてください。また、「不明なソフトウェアパッケージが見つかりませんでした。...」というメッセージが表示された場合も[はい]ボタンをクリックして、インストールを続けてください。

● AGP Miniport ドライバ

以下の手順に従ってドライバをインストールしてください。

- ① CD-ROM「EXPRESSBUILDER」をCD-ROMドライブにセットする。
- ② スタートメニューの[プログラム]→[アクセサリ]から[エクスプローラ]をクリックする。
- ③ 「<CD-ROMのドライブレター>:\¥winnt¥w2k¥AGP_MINI」ディレクトリ内の[Agpmini.exe]アイコンをダブルクリックする。
インストールウィザードを開始します。
- ④ [Select language]ダイアログボックスで、[U.S.English]をクリックした後、[Next]ボタンをクリックする。
- ⑤ [Welcome]ダイアログボックスで、[Next]ボタンをクリックする。
ファイルのコピーが開始されます。

- ⑥ [Installation Complete]ダイアログボックスで、[Finish]ボタンをクリックする。
- ⑦ [Install]ダイアログボックスで、[OK]ボタンをクリックする。
- ⑧ システムを再起動する。

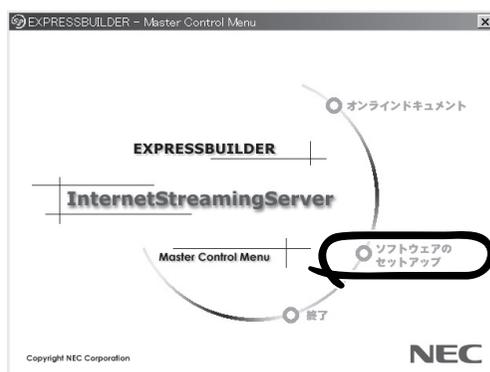
3 システムのアップデート ～Service Packの適用～

システムアップデートはService Packの適用と各デバイスドライバのアップデートを行うものです。プレインストールモデルやOSのインストールを指定されて購入された場合には自動で適用されますが、次のような場合は、必ずシステムのアップデートを行ってください。

- システムの修復を行った場合
- システムの構成を変更した場合

管理者権限のあるアカウント (Administratorなど) でシステムにログインした後、CD-ROM「EXPRESSBUILDER」をストリーミングサーバのCD-ROMドライブにセットしてください。

表示された画面「マスターコントロールメニュー」の[ソフトウェアのセットアップ]を左クリックし、メニューから[システムのアップデート]をクリックすると起動します。以降は画面に表示されるメッセージに従って処理を進め、Service Packの適用とドライバのアップデートを行ってください。



4 内蔵デバイスの取り付け/周辺機器の接続

ストリーミングサーバを初めてセットアップするときや再セットアップするときは、購入時の状態でオペレーティングシステムのセットアップをしなければなりません。ストリーミングサーバといっしょに別売の内蔵デバイスを購入している場合は、オペレーティングシステムのセットアップが完了してから取り付けてください。取り付けに関する詳しい説明については、8章を参照してください。

プリンタなどの周辺機器の接続もオペレーティングシステムのセットアップが完了してから行ってください。ストリーミングサーバ背面のコネクタには、さまざまな周辺機器と接続することができるコネクタがあります。コネクタの位置については、2章を参照してください。

周辺機器のデバイスドライバや周辺機器が提供するアプリケーションのインストールや設定については、周辺機器に添付の説明書を参照してください。

5 障害処理のためのセットアップ

障害が起きたとき、より早く、確実に障害から復旧できるように、あらかじめ次のようなセットアップをしておいてください。

メモリダンプ(デバッグ情報)の設定

ストリーミングサーバ内のメモリダンプ(デバッグ情報)を採取するための設定です。

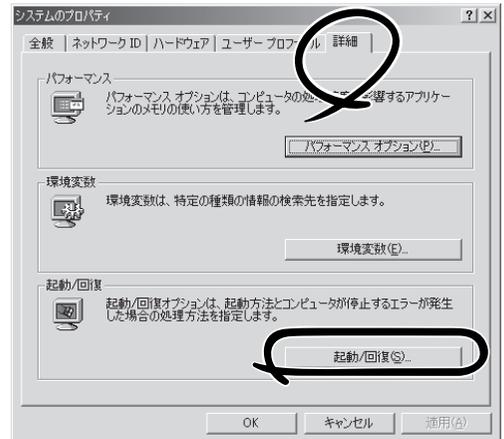


メモリダンプの注意

- メモリダンプの採取は保守サービス会社の保守員が行います。お客様はメモリダンプの設定のみを行ってください。
- ここで示す設定後、障害が発生した時にメモリダンプを保存するために再起動すると、起動時に仮想メモリが不足していることを示すメッセージが表示される場合がありますが、そのまま起動してください。起動し直すと、メモリダンプを正しく保存できない場合があります。

次の手順に従って設定します。

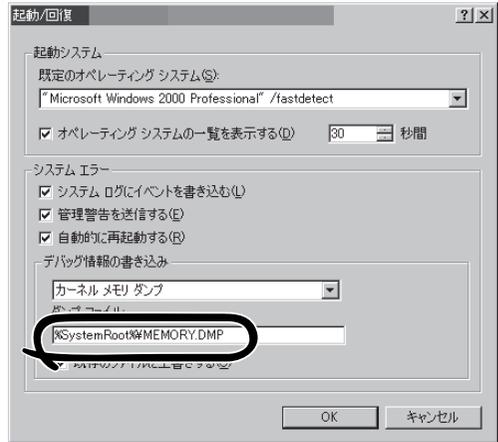
1. スタートメニューの[設定]をポイントし、[コントロールパネル]をクリックする。
[コントロールパネル]ダイアログボックスが表示されます。
2. [システム]アイコンをダブルクリックする。
[システムのプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。
3. [詳細]タブをクリックする。
4. [起動/回復]ボタンをクリックする。



5. テキストボックスにデバッグ情報を書き込む場所を入力する。

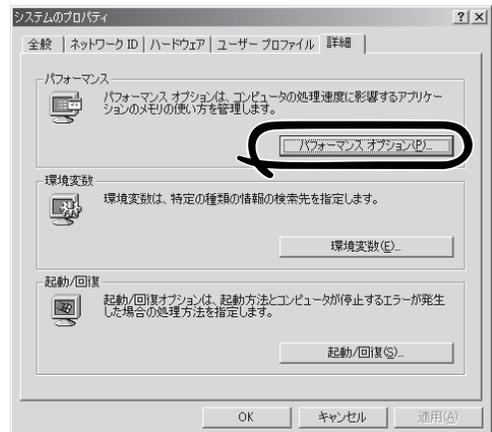
<Cドライブに「MEMORY.DMP」というファイル名で書き込む場合>

C:\¥MEMORY.DMP

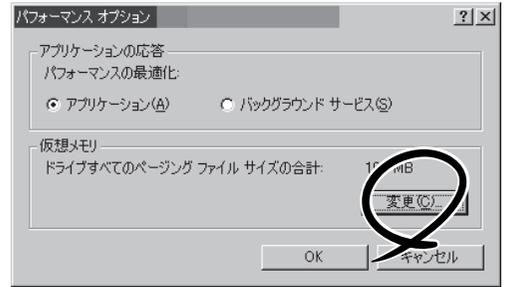


重要

- デバッグ情報の書き込みは[カーネル メモリ ダンプ]を指定することを推奨します。
 - ストリーミングサーバに搭載しているメモリサイズ+12MB以上の空き容量のあるドライブを指定してください。
 - メモリ増設を行った場合は、採取されるデバッグ情報(メモリダンプ)のサイズが変わりません。デバッグ情報(メモリダンプ)書き込み先の空き容量の確認を行ってください。なお、搭載メモリサイズが2GB以上の場合のダンプファイルサイズの最大は2048MBとなるので、空き容量は「2048MB+12MB」を目安にしてください。
6. [パフォーマンスオプション]ボタンをクリックする。



- [仮想メモリ]ボックスの[変更]ボタンをクリックする。
- [選択したドライブのページングファイルの[初期サイズ]を搭載メモリサイズの約1.5倍に設定する。



重要

- 必ずOSパーティションに上記のサイズで作成してください。STOPエラー発生時にデバッグ情報(メモリダンプ)を採取するために必要です。ページングファイルの[初期サイズ]を「推奨」値未満に設定すると正確なデバッグ情報(メモリダンプ)を採取できない場合があります。
 - 障害発生時に備えて、事前にダンプスイッチを押して、正常にダンプが採取できることの確認を行うことをお勧めします。
 - メモリを増設した際は、必ずメモリサイズに合わせてページングファイルの再設定を行ってください。
 - 再セットアップを行った場合は、ページングファイルがOSパーティション以外のパーティションに作成されることがあります。ページングファイルを作成するドライブを任意に変更してください。
- [OK]ボタンをクリックする。

設定の変更内容によってはシステムを再起動するようメッセージが表示されます。メッセージに従って再起動してください。

ワトソン博士の設定

ワトソン博士はアプリケーションエラー用のデバッガです。アプリケーションエラーを検出するとストリーミングサーバを診断し、診断情報(ログ)を記録します。診断情報を採取できるように次の手順に従って設定してください。



ワトソン博士の設定は、ストリーミングサーバ購入時、および再セットアップ時に自動的に設定されています。

1. スタートメニューの[ファイル名を指定して実行]をクリックする。

2. [名前]ボックスに「drwtsn32.exe」と入力し、[OK]ボタンをクリックする。

ワトソン博士のダイアログボックスが表示されます。



3. [ログファイルパス]ボックスに診断情報の保存先を指定する。

「DRWTSN32.LOG」というファイル名で保存されます。



チェック

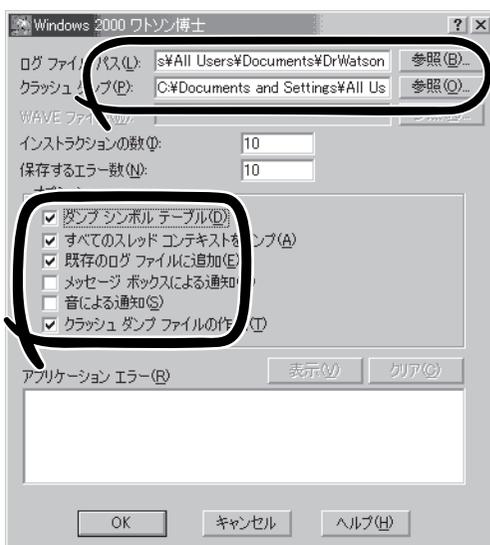
ネットワークパスは指定できません。
ローカルコンピュータ上のパスを指定してください。

4. [クラッシュダンプ]ボックスにクラッシュダンプファイルの保存先を指定する。



ヒント

「クラッシュダンプファイル」は Windows Debuggerで読むことができるバイナリファイルです。



5. [オプション]ボックスにある次のチェックボックスをオンにする。

- ダンプシンボルテーブル
- すべてのスレッドコンテキストをダンプ
- 既存のログファイルに追加
- クラッシュダンプファイルの作成

6. [OK]ボタンをクリックする。

セットアップブートディスクの作成

「セットアップブートディスク」は、何らかの原因でOSを動作させるために必要なファイルが破損し、再起動できなくなった場合、このフロッピーディスクから起動し、システムを修復することができます。あらかじめ作成しておくことをお勧めします。

作業を始める前に1.44MBフォーマット済みの3.5インチフロッピーディスクを4枚用意してください。

以下の手順でセットアップブートディスクを作成します。

1. 管理者権限のあるアカウント(administrator等)で、システムにログオンする。
2. エクスプローラからセットアップブートディスクを作成する実行ファイルを実行する。
C:¥BOOTDISK¥MAKEBT32.EXE
「C」はシステムドライブを指定してください。
3. コピー先のフロッピーディスクドライブを指定した後、表示されるメッセージに従ってセットアップブートディスクを作成する。

以下のフロッピーディスクが作成されます。

- Windows 2000 Setup Boot Disk
- Windows 2000 Setup Disk #2
- Windows 2000 Setup Disk #3
- Windows 2000 Setup Disk #4

4. 「C:¥BOOTDISK¥TXTSETUP.SIF」をWindows 2000 Setup Boot Diskにコピーする。

「C」はシステムドライブを指定してください。

以上で完了です。

重要

- 作成したセットアップブートディスクは、ラベルを貼って大切に保管してください。
- システムの修復方法は7章を参照してください。

6 管理ユーティリティのセットアップ

購入時のハードディスクには、管理ユーティリティがインストールされています。例として次のようなソフトウェアがあります。

- ESMPRO/ServerAgent
- エクスプレス通報サービス
- ESMPRO/UPSController(本ソフトウェアを購入された場合のみ)

ユーティリティによっては、お客様でご使用になる環境に合った状態に設定または確認をしなければならぬものもあります。5章を参照して使用環境に合った状態に設定してください。

また、その他にもストリーミングサーバ管理用のユーティリティが「EXPRESSBUILDER」CD-ROMに収録されています。5章を参照して、必要に応じてインストールしてください。



詳細については、5章または装置に添付されている別冊の説明書などを参照して使用環境に合った状態に設定してください。

また、ユーティリティには、ネットワーク上の管理PCにインストールするものもあります。詳しくは5章を参照してください。



再セットアップを行ったときは、個別にインストールしてください。(一部、再セットアップの設定によってOSと一緒に自動でインストールされるものもあります。)

7 システム情報のバックアップ

システムのセットアップが終了した後、オフライン保守ユーティリティを使って、システム情報をバックアップすることをお勧めします。

システム情報のバックアップがないと、修理後にお客様の装置固有の情報や設定を復旧(リストア)できなくなります。次の手順に従ってバックアップをしてください。

1. 3.5インチフロッピーディスクを用意する。
2. CD-ROM「EXPRESSBUILDER」をストリーミングサーバのCD-ROMドライブにセットして、再起動する。
EXPRESSBUILDERから起動して「EXPRESSBUILDER トップメニュー」が表示されます。
3. [ツール]—[オフライン保守ユーティリティ]を選ぶ。
4. [システム情報の管理]から[退避]を選択する。
以降は画面に表示されるメッセージに従って処理を進めてください。

再セットアップ

再セットアップとは、システムの破損などが原因でオペレーティングシステム(OS)を起動できなくなった場合などに添付の「バックアップCD-ROM」を使ってハードディスクを出荷時の状態に戻してシステムを起動できるようにするものです。



再セットアップをする前にシステムの修復を試してみてください。詳しくは7章をご覧ください。

再セットアップは添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」のメニューから起動します。
[シームレスセットアップ]をクリックすると、OSの再セットアップを開始します。

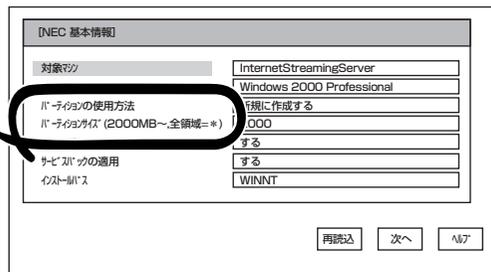


注意事項 ～パーティションについて～

システムのインストール先のパーティションについて説明します。システムをインストールしようとしているハードディスク内にユーザーエリアが存在する場合は、ここで説明する内容をよくお読みになり、セットアップを始めてください。

Windows 2000 Professionalの再セットアップでは、再インストール先のパーティションサイズを設定することができます。

再インストール先のハードディスクのすべてのエリアをフォーマットし直す場合は、以下の注意事項を確認し、[パーティションの使用法]で[新規に作成する]を選択します。



- 「パーティションサイズ」で設定できる値は「2000MB」～「9999999MB」です。ただし、インストールするディスクサイズ以内の値を指定してください。
- 搭載しているメモリサイズが2GB以上の場合は、「5000MB」(5GB)以上に設定してください。
- 「パーティションサイズ」で「2000MB」以外の値を指定したときはNTFSにファイルシステムをコンバートしなければいけません。

- インストール先のハードディスク内にユーザーエリアがある場合は、ユーザーエリア内の大切なファイルのバックアップをとってからセットアップを始めてください。



ストリーミングサーバ専用の保守用パーティション(MAINT_P)は、フォーマットされません。



保守用
パーティション

最初のパーティ
ション(ここにイン
ストールされる)

ユーザーエリアのパーティションと割り
当てられていないパーティション
([新規に作成する]を選択するとフォー
マットされる)

[パーティションの使用方法]で[既存のパーティションを使用する]を選択した場合は、最初のパーティション(保守用パーティションを除く)にインストールされます。ただし、次の点について注意してください。

- インストール先のパーティションにあるデータはすべて消去されます。
- 保守用パーティション以外にパーティションが存在しない場合は、インストールできません。[新規に作成する]を選択してください。
- インストールしようとするドライブをダイナミックディスクにしていた場合は、[既存のパーティションを使用する]は使用できません。
- 作成するパーティションサイズについて

システムをインストールするパーティションの必要最小限のサイズは、次の計算式から求めることができます。

1600MB + ページングファイルサイズ + ダンプファイルサイズ

1600MB = インストールに必要なサイズ
 ページングファイルサイズ(推奨) = 搭載メモリサイズ × 1.5
 ダンプファイルサイズ = 搭載メモリサイズ + 12MB



- 上記ページングファイルサイズはデバッグ情報(メモリダンプ)採取のために必要なサイズです。ページングファイルサイズの初期サイズを「推奨」値未満に設定すると正確なデバッグ情報(メモリダンプ)を採取できない場合があります。
- 搭載メモリサイズが2 GB 以上の場合のダンプファイルサイズは、「2048MB+12MB」です。

例えば、搭載メモリサイズが512MBの場合、必要最小限のパーティションサイズは、上記の計算方法から

$$1600\text{MB} + (512\text{MB} \times 1.5) + (512\text{MB} + 12\text{MB}) = 2892\text{MB}$$

となります。

再セットアップの準備

作業を始める前にディスプレイ装置を除く周辺機器のケーブルをストリーミングサーバから取り外してください。



- 再セットアップを確実にするためにストリーミングサーバ内部に増設したデバイスも取り外して購入時の状態にしておくことをお勧めします。ただし、増設メモリは再セットアップ前に取り外す必要はありません。
- ストリーミングサーバのBIOS設定でマザーボード上のLANコントローラのオプションROMを展開できるように設定している場合は、これを無効にしてください。

[Advanced] - [Advanced] - [Option ROM] - [On Board LAN1および2] → [Disabled]

詳しくは6章を参照してください。

再セットアップに必要なディスクは次のとおりです。

- EXPRESSBUILDER (CD-ROM)
- バックアップCD-ROM (1枚: 243-110007-028-X)
 - * 「X」にはアルファベットが入ります。
- Windows 2000 Service Pack 1
- セットアップパラメータFD (または1.44MBフォーマットの3.5インチフロッピーディスク1枚)



セットアップパラメータFDを使うと再セットアップの際に選択するさまざまな項目をスキップして前回と同じ設定で自動的にセットアップすることができます。

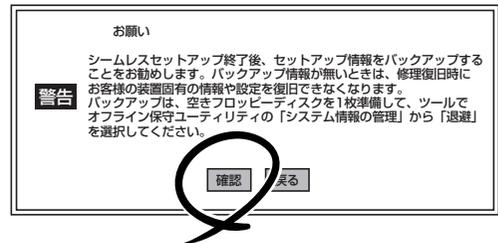
再セットアップの開始

以下の手順で再セットアップを始めます。

1. CD-ROM「EXPRESSBUILDER」から起動する。
2. [シームレスセットアップ]をクリックする。
「お願い」が表示されます。



3. 記載内容をよく読んでから[確認]ボタンをクリックする。



4. セットアップパラメータFDまたは1.44MBフォーマット済のブランクフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットして[確認]ボタンをクリックする。



ライトプロテクトはしないでください。

【設定済のセットアップパラメータFDをセットした場合】

セットした「セットアップパラメータFD」内のセットアップ情報ファイルが表示されます。

- ① インストールに使用するセットアップ情報ファイル名を選択する。



選択されたセットアップ情報ファイルに修正できないような誤りがある場合(たとえばExpressPicnic Ver.3以前において作成した「Picnic-FD」をセットしているときなど)、再度「セットアップパラメータFD」のセットを要求するメッセージが表示されます。セットしたフロッピーディスクが正しいか確認してください。

セットアップ情報ファイルを指定すると、「セットアップ情報ファイルのパラメータの確認、修正を行いますか」というメッセージが表示されます。

- ② 確認する場合は [確認] ボタンを、確認せずにそのままインストールを行う場合は、[スキップ] ボタンをクリックする。

🔑 重要

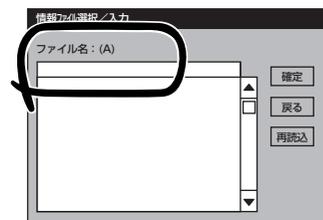
オペレーティングシステム(OS)の選択では、[Windows 2000] を選択を選択してください。

- [確認] ボタンをクリック → 手順5へ進む
 [スキップ] ボタンをクリック → 手順7へ進む

[ブランクディスクをセットした場合]

- ① [ファイル名:(A)]の下にあるボックス部分ををクリックするか、<A>キーを押す。

入力ボックスが表示されます。

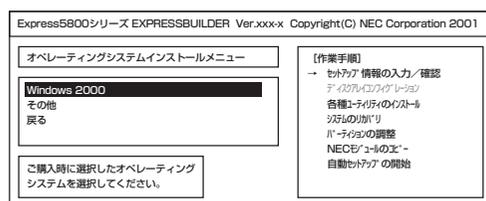


- ② ファイル名を入力する。

[オペレーティングシステムインストールメニュー] が表示されます。

- ③ [Windows 2000] を選択する。

[その他] を選択しないでください。

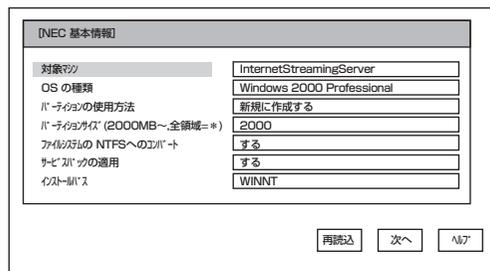


🔑 重要

オペレーティングシステム(OS)の選択では、[Windows 2000] を選択を選択してください。

5. OSのインストール中に設定する内容を確認する。

設定内容を確認し、必要なら修正を行ってから [次へ] ボタンをクリックしてください。以降、画面に表示される [次へ]、[戻る]、[Alt] ボタンをクリックして設定を確認しながら画面を進めてください。設定内容は必要に応じて修正してください。



🔑 重要

- 「パーティションサイズ」で設定できる値は「2000MB」～「999999MB」です。ただし、インストールするディスクサイズ以内の値を指定してください。
- 搭載しているメモリサイズが2GB以上の場合は、「5000MB」(5GB)以上に設定してください。
- 「パーティションサイズ」で「2000MB」以外の値を指定したときはNTFSにファイルシステムをコンバートしなければいけません。
- 設定内容に不正がある場合は、次の画面には進めません。
- 前画面での設定内容との関係でエラーとなり、前画面に戻って修正直さなければならない場合もあります。



ヒント

[NEC基本情報]画面にある[再読込]ボタンをクリックすると、セットアップ情報ファイルの選択画面に戻ります。[再読込]ボタンは、[NEC基本情報]画面にのみあります。

設定を完了すると自動的に再起動します。再起動後、次のメッセージが表示されます。

「バックアップCD-ROM」をCDドライブに挿入してください。

6. バックアップCD-ROMをCD-ROMドライブにセットし、[OK]ボタンをクリックする。

画面が切り替わり、Windows 2000 Professionalの再セットアップを開始します。再セットアップの途中で次のメッセージが表示されます。

次のメッセージが表示されます。

EXPRESSBUILDER CD-ROMを
CD-ROMドライブに挿入してください。

7. バックアップCD-ROMをCD-ROMドライブから取り出して、CD-ROM「EXPRESSBUILDER」をCD-ROMドライブにセットする。

再起動後、引き続きオペレーティングシステムのセットアップを行います。

8. 追加するアプリケーションをインストールする。

シームレスセットアップに対応しているアプリケーションを追加でインストールする場合は、メッセージが表示されません。

設定を完了すると自動的に再起動し、[ソフトウェア使用許諾契約]画面が表示されます。

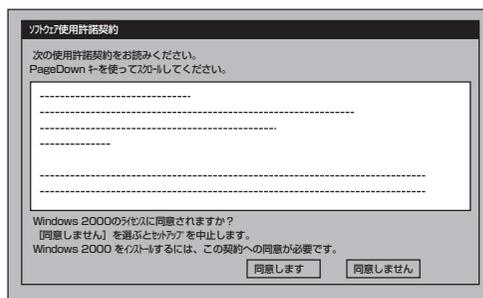
追加するアプリケーションのインストール
媒体をCD-ROMまたはフロッピーディスク
ドライブに挿入してください。

OK 終了

9. よく読んでから、同意する場合は、[同意します]ボタンを、同意しない場合は、[同意しません]ボタンをクリックする。



重要
同意しないと、セットアップは終了し、Windows 2000はインストールされません。



10. メッセージに従ってCD-ROM「EXPRESSBUILDER」をCD-ROMドライブから、セットアップパラメータFDをフロッピーディスクドライブから取り出して[OK]ボタンをクリックするか、<Enter>キーを押す。

11. <[NEC基本情報]で[サービスパックの適用]を[する]にした場合>

メッセージに従ってWindows 2000 Service Pack 1 CD-ROMをCD-ROMドライブにセットする。

以降、画面に表示されるメッセージに従って作業を続けてください。[Windows2000へようこそ]ダイアログボックスが表示されたら、インストールは完了です。

12. 本体標準装備のデバイスドライバのインストールやセットアップをする。

50ページの「デバイスドライバ(本体標準装備)のセットアップ」を参照してください。

以上でWindows 2000のシステムが再セットアップされました。52～58ページを参照してセットアップを完了してください。

